



ふじさわ体協

発行・編集 藤沢市体育協会

〒251-0052 藤沢市藤沢115 エフティービル藤沢

関水正文顧問を偲んで

藤沢市体育協会顧問 西島一光



昭和二十二年の藤沢市体育協会の設立に関わり、60年に亘って専門委員・理事・常任理事・副会長・顧問としてご指導をいただいた関水正文さんが、秋彼岸の九月二十一日に亡くなられました。満百歳（上寿百賀）の天寿を全うされたとは云え、掛け替えのない立派な指導者を失ったことは本当に残念です。謹んで哀悼の意を表したいと思います。

関水さんは旧制中学時代野球の選手として活躍されてきました。その後陸上競技の道に進まれ、大正十五年白旗神社の裏・現在の藤沢バイパスのあたりにあった藤沢競馬場の特設グラウンドで開催された第四回神奈川県青年大会兼第三回明治神宮大会県予選会の百米競走に優勝されています。神宮大会出場の際は、村長さんから銀時計を貰い旗行列で送られたという事です。昭和二年法政大学に進まれ、陸上競技部主将を勤められ関東学生陸上競技連盟技術委員としても活躍されています。その間日本陸上の有力選手たちとも交友を深め、なかでも日本最初の金メダリストで陸上の神様といわれた織田幹雄さんは、数年前に亡くなられるまで関水さんのお宅を訪れ、いつも陸上競技の話を楽しんで居られました。

昭和三年関水さんたち神宮大会出場選手が集まって「神青クラブ」が結成され、このクラブがやがて昭和十年に神奈川陸上競技協会に発展しました。大東亜戦争を経て関水さんたちは、昭和二十年藤沢駅前遊行通りに運動具店を開店されました。当時は戦後の物資不足の時代で、店に陳列されているものは衣料・革製品等のスポーツ用品は殆ど無く場違いの大きな丸鋸の刃といった状況で、店のなかでは専ら、藤沢市陸協設立の相談や神奈川陸協再建の話でした。

昭和二十三年には、藤沢ゴルフ場を利用して昭和十九年開設された藤沢海軍航空隊の跡地に、佐々木さん等と計って藤沢市営陸上競技場を建設し、第三回東口杯争奪全国青年陸上競技大会を招致、以後神奈川陸上活動の拠点とされました。

関水さんは陸上界では名スター、また数少ないスポーツの専門家として藤沢市体育協会・藤沢市陸上競技協会の創設・育成、神奈川陸上競技協会の再建等に寄与されてきましたが、非常に謙虚な方で、名誉欲に目が眩んでいる役員が多いスポーツ界のなかで異色の存在でした。陸上界では日本陸連参与、神奈川陸協副会長・顧問、体協関係では藤沢市体育協会副会長・顧問等の要職を歴任されましたが、いづれも「長」という名を嫌われ、僅かに藤沢市陸協についてのみ会長職を引

き受けてくださいました。兎角肩書きによって行われる顕彰制度のなかにあつて藤沢市より教育文化貢献者表彰・藤沢市表彰条例に基づく表彰・藤沢市体育協会から第一号藤沢スポーツ賞・神奈川県体育功労賞、日本陸連秩父宮賞等数々の賞をうけられ、昭和四十八年には文部大臣社会体育功労者表彰、特に昭和五十二年には勲六等に叙せられ単光旭日賞を授与されたのは、関水さんの本当の功績が評価されたものと考えられ喜びに堪えませんでした。

若い時から、関水さんの周囲には人の輪ができ笑いの渦ができる和やかな雰囲気がありました。昭和二十九年の国体北海道大会に参加した神奈川の女子選手たちが、監督の「関水さんを囲む会」を永年続けていたことでも、関水さんが如何に皆さんに慕われていたかが判ります。身障者の大会で耳の不自由な選手たちがスタートしやすいうように腰をかがめ左手の指をチョッと舐めてジェスチャーしていたやさしい仕種が今でも思い出されます。

心優しく誰にでも細かい神経を使われていた関水さんは、秋彼岸の最終の世に旅立たれました。茶色のベレー帽・茶色のチェックのマフラー・茶色の背広と、おしやれでモダンだった関水さんの旅立ちの姿が今も眼に浮かんできます。

関水さんのような良い方にもう二度とお会いできないのは本当に残念ですが、これからもスポーツの発展に微力を捧げることをお誓いし、心からご冥福をお祈り申しあげます。

第61回 藤沢市総合体育大会

【総合成績】

順位	地区名	得点
優勝	滝の沢地区	202.5
準優勝	藤沢地区	185.0
第3位	高谷地区	182.0
第4位	駒寄地区	178.5
第5位	大鋸地区	165.0
第6位	御所見地区	156.0

【種目別優勝】

種目	地区名
バレーボール(男子)	俣野
バレーボール(女子)	藤沢
卓球	滝の沢
バドミントン	遠藤
ソフトテニス	藤沢
硬式テニス	長後

※ 軟式野球は雨天の為、ベスト8決定後終了となりました。
 ※ ソフトボールは雨天の為、1回戦にて終了となりました。

【オープン競技】

種目	実施日 参加人数 他	種目	実施日 参加人数 他	種目	実施日 参加人数 他
陸上	9/3 67名	スキー	H19 1/27 志賀高原	ゴルフ	8/21 162名
バスケットボール	6/25~7/16 900名 87チーム	空手道	10/15 432名	ボウリング	6/25 50名
水泳	7/9 95名	弓道	7/17 78名	太極拳	11/19 146名
剣道	8/27 695名	ラグビー	9/3 1240名 22チーム	アーチェリー	10/8 15名
射撃	8/13 35名	ハンドボール	12/9~12/27	バウンドテニス	10/29 90名
サッカー	8/20~11月末 209チーム	体操	8/12 203名	ダンススポーツ	11/25~11/26 500組 1000人
山岳	7/8~7/9 42名 西穂高岳	ゲートボール	9/24 228名		
柔道	10/29 250名	ヨット	8/6 54艇99名		

硬式テニス 地区対抗種目に正式決定!

これまで行われていた陸上競技大会に替わって今回より硬式テニスが新たに加わりました。

硬式テニス大会は、オープン種目として、昭和53年からこれまで29回、ジュニアから壮年まで幅広く、一般市民の方々に親しまれてきました。

今年からは、協会独自の大会として引き続き行う個人戦と、市民総合体育大会の地区対抗戦としての団体戦で行うこととしました。

地区対抗戦は善行の県営コートにおいて19地区の参加を得て、8月13日・20日の2日間にわたり、男子3チーム、女子2チームの5チームによる対抗戦で競いました。

試合方式はトーナメントで行い、長後地区が第1回大会の優勝地区となりました。



【第1回優勝 長後地区】

女子ラグビーの普及と振興

今年9月に女子ラグビーの普及を図る目的で藤沢市ラグビー協会の市民大会に東京の世田谷レディースを招き、藤沢市女子選手も出場した。結果は12対0で世田谷が勝利。大勢の観客も初めて見る女子ラグビー選手に温かい拍手が送られた。ラグビーを純粹に楽しんでいる女性の為に、また少しでも競技人口を増やしたい願いの為に、藤沢市ラグビー協会は女子ラグビー普及と振興に協力していきたい。



【世田谷レディース 対 関東混成レディース 於 秋葉台球場】

第57回 神奈川県総合体育大会

【種目別競技成績】

種目	成績	得点	種目	成績	得点
バレーボール(男)	優勝	36.0	ボウリング(男)	11位	27.0
卓球	優勝	36.5	バレーボール(女)	13位	19.5
バスケットボール	優勝	36.5	スキー	13位	24.0
柔道	3位	34.5	ボウリング(女)	15位	23.0
射撃	4位	34.0	ソフトボール	17位	13.5
ゴルフ	4位	34.0	ソフトテニス	17位	16.5
水泳	7位	31.0	弓道	17位	18.0
バドミントン	9位	26.0	サッカー	25位	9.5
計					419.5

【総合成績】

順位	市町村名	得点
1	横浜市	516.0
2	相模原市	509.5
3	横須賀市	466.0
4	秦野市	451.0
5	平塚市	444.5
6	川崎市	438.0
7	小田原市	427.0
8	藤沢市	419.5
9	鎌倉市	399.0

バレーボール競技一般男子の部 優勝 怒濤の3連戦

3チームの棄権があり、休憩なしの3連戦になりましたが、チーム皆で「今年は優勝するんだ」という気持ちで1つにして戦い抜きました。

〈1回戦〉藤沢市2-10 厚木市

1セット目、序盤先行され11対18から奇跡の逆転勝利。

〈準決勝〉藤沢市2-10 横浜市

2セット目ファーストサーブ入らず苦戦したがエース島田の活躍で勝利。

〈決勝〉藤沢市2-11 湯河原町

ベテランが揃う相手に苦戦したが、最後に高橋のブロックで波に乗り優勝しました。

県総藤沢の男子チームは、毎週火曜日の夜19時30分より22時まで藤沢駅近くの藤沢小学校の体育館を借りて練習しています。9人制チームで初心者からベテランまで幅広い年齢層でバレーボール好きの仲間が集まり楽しく練習しています。

来年も連覇に向けてチーム一丸となって頑張っています。



バスケットボール優勝!!

1回戦鎌倉市、2回戦山北町、準決勝厚木市と順調に勝ち進み決勝戦は横須賀市との対戦となった。

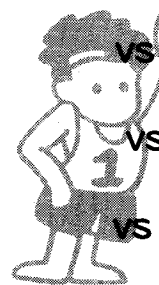
立ち上がり5分間でアウトサイドからの攻めで17-4とリード。#12大澤が前半だけで13得点の活躍で第二ピリオド残り5分で20点差をつけるが、前半終了間際に横須賀のペースに持ち込まれ、10点差に詰められる。後半に入り、横須賀の攻守の速い切り替えに押され気味ながらも、#9西川の3ポイントなど外角のシュートが効果的に決まって逆転を許さない。終始、#4長谷川らガード陣の安定した試合運びで一度もリードを許さず1年ぶりの優勝を決めた。

1回戦 VS 鎌倉 105 - 63

2回戦 VS 山北 120 - 67

準決勝 VS 厚木 91 - 82

決勝 VS 横須賀 82 - 71



One for all All for one

卓球競技は小田原市、大和市、秦野市を次々と下し、決勝戦では、平塚市を四一二で破り、優勝に輝いた。

各選手が持ち味を十分に発揮した事が勝利につながったといえよう。トップの重責を果たした本間新選手、閃光のバックハンドを放つ上村幸司選手、いぶし銀のプレーを見せた板垣時男選手。しなやかで切れのあるドライブを打つ井置奈都選手、三球目攻撃が冴えた岩下和美選手、チームの柱として全勝した薩美歌林選手。そして、円熟味の試合運びで確実にポイントをとった松本益雄・安西州恵子選手のミックスペア。

かつて、藤沢市が連覇していた時は、他チームを圧倒するスーパースター選手揃いだっただけ。正直、その頃のメンバーと比較すると個々の力量は劣るかもしれない。それだけに、今回の優勝は格別なものでOne for all All for oneという選手間の強い信念と信頼がもたらしてくれた、すばらしい勝利であった。



ジュニア育成に携わって

藤沢市バドミントン協会

バドミントン協会は、平成17年に創立40周年を迎えました。私たちの協会は、平均年齢が30歳代前半と若いいため、仕事の関係で協会のことは二の次になってしまいう事が多く、全員を集めて理事会を開催するのがとても大変でした。しかし、ここ数年で若い人たちの協会に対する考え方も変わってきた様で、「皆で協力しなくては」との思いが出てきた様です。今、ジュニア・中学生・高校生との育成をしています。特にジュニアは、6年前より秩父宮記念体育館で育成を始め現在に至っています。事の始まりは、バレーボール協会がジュニアの育成事業を行っているのを見たのがきっかけでした。バドミントン協会でも同じようにできるのでは？と思いい、遊んでいる子供達や、バドミントンをやりたくても場所が無い子供達を対象にスタートしました。最初の頃は、ひとりひとりが自分の主張で始まり、40人全員の話題は学校での出来事や、友達の話ばかりで、自分が話題の中心にならないと泣き出す子や、少しでも手を触れると喧嘩になったり友達付き合いのわからない子供ばかりでした。小学生の時



2006.02.25

は、先輩、後輩のけじめがないため、少しづつ教えていきました。がなかなか理解してもらえませんでした。試合に出掛けた時に他の団体の親から注意されても子供達は何の事か理解出来ずにいました。これも一つの教育と思いい、その都度全員を集め、今どうして注意されたのかを説明したり...こんな事の繰り返しでした。今では、6年生をリーダーとして下級生がついて行き、新入部員に対しては皆で面倒を見てあげる、この様な当たり前の事が6年前は全然出来ませんでした。学校生活では経験できない様な事をいっぱい経験する...これは子供達の宝になると思っています。学校の友達とは違った大勢の仲間が出来た事は、とてもすばらしい事で「もっと自信を持って」と言っただけで、親は子供を大切にすることも大事だけれど、もう少し信頼してあげてほしい。私達は子供達からいろいろな事を学び、いっばい喜びも与えてもらった。本当に会えて良かった。これからも今まで以上、技術・心が上達出来る様にガンバリます。



種目協会アラカルト

大正時代の道家

藤沢市弓道協会

今年度は藤沢市体育協会創立六十周年おめでとうございます。六十周年記念誌の原稿準備のために集めました資料により、藤沢の弓道愛好家の活動について大正時代まで遡る事が出来ました。記念誌の口絵写真、座談会にも大正時代のことは紹介されておりますが、当時の偉大な弓道家本多流範士関根善太郎氏の紹介をして藤沢の弓道のいにしえに触れてみたいと思っています。



研究と共に多数集まる同志に対し指導するを倦とせず日を暮らさる。氏の技術は的前十五間三尺の普通より遠的三十三間五十間に至る迄殆どの中しなものは無い。氏の使用する弓矢は有名なる弓師石津父子の作になる。氏の弓道の号たる「青葉」の銘が打たれて有る。弓の種類は的前使用、園於使用、堂前使用等各種併せて十五六張りも蔵せられ、矢の如きも頗る高価たるもの多数蔵せられて、その値巨額に達せられる。氏は大正六年本多先生が亡くなられるまで約二十年間指導を受けられたと考えられます。

藤沢郷土誌（加藤徳右衛門著 国書刊行会 昭和八年初版発行）には次のように紹介されています。「廿二歳の青春の血に燃える頃より竹林派弓術の大家本多利實氏の菓鴨の道場に通って研究を積んだ。氏は弓術の趣味に生くる事茲に廿五年、大正九年には大日本武徳会総裁大勲位功四級久邇宮邦彦王殿下より精練証を授与されている。（中略）邸宅を鶴沼海岸にかまえ、広き庭園の一部には自ら丹精の菊、懸崖のみにて百五六十鉢あるを早朝より世話して、海浜の朝の清気を吸ひては勤めに赴かる。日曜日には自らの

次回には昭和の弓道家「布施莊介」の紹介をしたいと考えております。

編集後記

今年度初めの「ふじさわ体協」も生涯学習部長新任の辞、体協60周年記念式典の報告、協会アラカルトにおいては歴史のある2協会の協力を得、誌面を飾る事ができた。記念式典にあわせ念願であった記念誌を作成し「飛躍して未来へ」の表題通り、体協も広報紙も更なる飛躍を!!と願って編集後記としたい。

荻野・尾崎